

株式会社 西興部グラスフィードファクトリー

■ 個人農家の労働力不足、低コスト化に対応するために設立



〈法人の概要〉

所在地: 〒098-1422 西興部村字東興 296

代表者: 代表取締役 森田英一

構成員: 10 名(構成農家 10 戸)

役員: 5 名 常時雇用者: 6 名

設立: 平成 19 年 12 月 資本金: 100 万円

事業内容: 飼料作物/TMR供給、農作業受託
牧草 8ha

経営面積: 8ha

農作業受託面積: 900ha(牧草 680ha、デントコーン 220ha)

売上高: 4 億 8,000 万円(H21 年)

電話: 0158-88-5500 FAX: 0158-88-5858

〈法人のあゆみ〉

平成 16 年	村内でTMR設立に係る話し合いを開始
19 年	村内 10 戸の酪農家により、株式会社西興部グラスフィードファクトリーを設立
20 年	施設整備及び機械導入にあたり、北海道農業開発公社の事業を活用
21 年	本格稼働を開始

〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・個人経営での労働力不足、低コスト化に限界を感じていたことから、平成 16 年よりTMRセンターの設立を検討した。
- ・以前から、地域の仲間で牧草の収穫作業を共同で行っていたことが法人化を進める素地となった。
- ・TMRの配送等に係る経費を要することから、飼料代がこれまでよりやや高くなることに対する抵抗や、機械・施設の扱いをどうするかなどの課題が生じた。検討を重ねた結果、機械については、大型機械は個人ではなく法人の所有とし、飼料代についても同意を得ることが出来た。
- ・また、法人設立のメリットなどについては、行政機関、農業改良普及センター、農協に相談し、検討を進めた。
- ・様々な検討を経て、平成 19 年 12 月に村内 10 戸の酪農家により、株式会社西興部グラスフィードファクトリーを設立。
- ・翌年の平成 20 年には、北海道農業開発公社の事業のほか、村の助成制度(村単費)を活用し、施設整備及び機械導入を実施し、21 年 7 月から本格的に稼働を開始した。
- ・良質な飼料の安定供給に努めている。

〈主な機械・施設〉

自走式ハーベスター2 台、モアコンディショナー1 台、トラクター6 台、コーン播種機 2 台
スラリータンカー5 台、マニユアスプレッダー4 台、乾燥収穫機 2 台
製造工場 1 棟、バンカーサイロ 24 機

〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・将来的に法人を担う若手の育成・確保。
- ・求人情報を出しても集まらないため、若手の人材が不足している。
- ・農地が分散しているため、作業効率の向上を阻害している。
- ・経営の安定、新規事業の展開・確立をどのように図っていくか。
- ・これらの課題については、解決が難しく、現在も検討を続けている。

〈法人経営のメリット・デメリット〉

(メリット)

- ・飼料調製に係る作業が軽減されたことに伴い、生じた時間で牛の個体管理をきっちり行うことが可能となり、結果として1頭あたり乳量の増加(平均2割増)に繋がった。
- ・飼料生産・調製に係る作業が軽減されたことに伴い、労働力不足が解消された。

(デメリット)

- ・万一、飼料の質が悪い場合、構成員全員に乳量の減少等の悪影響を与えること。
- ・乳量が減少すると、飼料が原因と見なされること。

〈法人が継続するためのポイント〉

- ・人材育成と経営安定の維持を図るため、今後、検討を続けていく。

〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・人間関係が将来の法人経営を大きく左右する。
- ・和を大切にすること。

〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・飼料の圧縮梱包に取り組んでいる。暑い年には、飼料が傷まず高品質を確保できる。
- ・平成22年6月に、畜産試験場(新得町)が実施している「産学官連携経営革新技術普及強化促進事業」の現地試験に協力し、「大型バンカーサイロの仮密封法の導入による細切サイレージの発酵品質向上」として、バンカーサイロの2本同時詰めを行うことで、詰め込み密度を向上させ、グラスサイレージの発酵品質を高める現地実証を実施した。

〈経営目標と将来の展望〉

- ・若手の育成と確保を図り、将来的に法人を担う人材を育成していきたい。
- ・現状が維持できるよう、経営の安定に努めていく。

〈視察等の受入〉

詳細については要相談。

連絡先:0158-88-5500 (担当:橋本由美子)